

「この苦しみを超え！」

日時：7月20日(月曜日)10:30～

場所：真言宗東芳山花鳥寺 寺務所3階

地下鉄東西線「蹴上下車」東へ徒歩約13分南側東山花鳥霊園内、駐車場完備

読経 佛前勤行(真言宗総本山東寺)

法話／土口哲光 住職

終了後「お悩み相談」

希望者は、事前にお申込み下さい ☎075-593-7800／個別／秘密厳守

土口哲光住職の著書

真言宗総本山教王護国寺(東寺)第256世砂原秀遍猊下推薦の一冊！

「泣いて生まれてきたのだから

笑って死にゆく準備をしよう」

神戸市西区の真言宗御室派長福寺の長男として生まれ、僧侶となるべく高野山大学に学んだ土口住職。日本の全宗教を取材対象とする「中外日報社」に入社し役員となる。

退社後は総本山教王護国寺(東寺)に教化部長として入山、「御影供」の「弘法市」より御影堂の唐門の前に立って辻説法を続けていた。

本書は、そんな土口住職の温かい包容力のある人柄を彷彿とさせる珠玉のエッセイ集。

土口哲光和尚の説法／高瀬川だより8月224号寄稿文

《「この苦しみを超え！」》

外出を減らして要請された自粛で、人と人との間の社会的距離を保つようにしてコロナ禍を避けている。果たしてコロナは終息するのだろうか、との不安を抱き、長期に亘る辛抱も覚悟しての日々の暮らしが続いている。

人は生まれたら必ず「四苦八苦」の苦しみを背負う。八苦のうち「怨憎会苦」という苦しみがある。これは「愛別離苦」、愛する者と別れなければならない苦しみの逆で、憎しみを覚える者と出会わねばならない苦しみである。まさにコロナとの出会いは怨憎会苦の最たるものである。こちら側から集団免疫(力)をつけてコロナと折り合いをつける。憎いやツでも「いいところもあるやないか」と認識の変わる日が来たらんことを一。